

ふくいの子どもたちと先生のための

GGKニュースNEXT

NEWS LETTER
vol. 03 2026
福井県教職員課
2026.11.02

一人で抱え込まない学校づくり　働きがいと働きやすさ向上

学校の小規模化や課題の多様化が進む中、一人の経験や知識だけでは対応が難しい場面が増えています。
学年や学校の枠を越えた情報交換や協働を進めることで、新たな気付きや解決策が生まれます。
今回は、教職員同士がつながり、支え合いながら、働きがいと働きやすさを高める取組を紹介します。



情報交換

校内の教員数が減少すると、多様な考えや実践に触れる機会が少なくなります。こうした中、特に小規模校では、他校の同学年の教員同士が情報交換を行うことで、新たな視点や実践のヒントを得ることができます。研修やオンラインを活用した学校間の交流も有効な方法です。

Point!!

- 横の連携
- オンライン交流
- 実践事例の共有
- 新しい発想の獲得



チーム担任制

チーム担任制は、教員同士で役割を分担しながら子どもたちを支える取組です。業務負担の分散や柔軟な指導につながるだけでなく、子どもたちからも「いろいろな先生と話ができる」と好評です。朝の会や帰りの会、道徳、特別活動など、取り組みやすい場面から始めることで、学校の実情に応じた運用が可能です。

Point!!

- 指導の属人化防止
- 業務の分散
- 多面的な児童理解
- 柔軟な教育活動



他校から学ぶ

県内外の学校では、さまざまな工夫や改革が進められています。他校の実践に学び、自校の取組を見直すことは、働きがいや働きやすさの向上につながります。取組の背景や目的にも目を向けながら、自校に生かせる工夫を積極的に取り入れていきましょう。

Point!!

- 他校事例の収集
- 背景や意図の理解
- 自校の実践へ応用
- 継続的なアップデート

COLUMN　協働する力は教師の専門性の一つ

学校現場では、「自分で何とかしなければ」と考える先生が少なくありません。しかし、課題が多様化・複雑化する中、一人の力だけで解決できることには限界があります。
学年や学校の枠を越えて知恵を出し合い協働することで、一人では見えなかった解決策が見えてきます。 互いに支え合いながら学び続けることが、子どもたちへのよりよい支援につながります。

